

歴代の名品を一挙公開！

国宝14件、重要文化財24件を含む

漆と金の千年物語

Special Exhibition
Magnificent Lacquer
Tales of Lush and Gold over a Thousand Years

大時絵展

特別展

たい

ま

え

2023

4.15(土)・5.28(日)

開館時間 | 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 | 月曜日 ※GW期間: 5月2日(火)～5月7日(日)は休まず開館

観覧料 | 一般1,600円・高大生800円・小中生500円

※20名様以上の団体は一般1,400円、高大生700円、小中生400円

※土曜日は高校生以下入館無料

主催 | 徳川美術館、MOA美術館、三井記念美術館、朝日新聞社

後援 | 国華社、漆工史学会、日本工芸会

協力 | あいおいニッセイ同和損保



徳川美術館

THE TOKUGAWA ART MUSEUM

TEL (052)935-6262 FAX (052)935-6261

〒461-0023 名古屋市東区徳川町

紅・白段金襴扇に枝垂桜文唐織
江戸時代 19世紀

大時絵展公式サイト <https://maki-e.exhibit.jp/>

大時絵展公式Twitter @Maki_e_ten

記念講演会

「時絵の魅力ー初音の調度を中心として」

講師: 室瀬 和美氏 (重要無形文化財「時絵」保持者)

日時: 4月15日(土) 午後1時30分～午後3時(開場: 午後1時)
定員: 70名(事前申込制/先着順)
会場: 徳川美術館 講堂
参加費: 2,000円(入館料別途要)

土曜講座

①「源氏物語絵巻と初音の調度ー二つの国宝に見る日本の伝統美ー」

学芸部部長代理 吉川 美穂

②「尾張徳川家における演能」 学芸部マネージャー 並木 昌史

日時: ①4月22日(土) ②5月13日(土)
各日午後1時30分～午後3時(開場: 午後1時)
定員: 各日70名(事前申込制/先着順) 参加費: 各800円(入館料別途要)

本格体験講座

「漆芸家に学ぶ！
世界に1つだけの時絵オリジナルスプーンをつくろう！」

講師: 安藤 源一郎氏 (漆芸家・日本工芸会正会員)

鵜飼 敏伸氏 (漆芸家・日本工芸会正会員)

日時: 4月23日(日) [午前の部] 午前10時30分～午前12時30分 [午後の部] 午後2時～午後4時
定員: 各10名(事前申込制/先着順)
参加費: 11,000円(入館料別途要)

次回展覧会 6月3日(土)～7月17日(月・祝)

特別展「よそおいの美学」

企画展「極める！江戸の鑑定」



石首魚石入櫛色塗刀拵・脇指拵



本阿弥光室折紙 元和七年六月三日 刀 無銘 兼光 附属

新型コロナウイルス感染症対策 ●マスクを着用してご来館ください。●入口にて検温を実施しております。●展示室内での会話はお控えください。●今後の状況によっては、展覧会・イベントが変更・中止となる場合がございます。

企画展

能の世界

神・男・女・狂・鬼

全部で200曲以上あるといわれる能の演目を分類分けした言葉に、神・男・女・狂・鬼があります。今回の展覧会では、この神・男・女・狂・鬼の代表的な曲目の取り合わせを、能面・能装束や小道具などで紹介します。

Thematic Exhibition
The World of Noh Drama:
Gods, Men, Women, Madness, and Demons

主催 | 徳川美術館・名古屋市蓬左文庫



能面 小面 伝是閑吉満作
桃山～江戸時代 16～17世紀

*期間中、作品の展示替えがあります。

蓬左文庫

HOSA LIBRARY, CITY OF NAGOYA

TEL (052)935-2173 FAX (052)935-2174

〒461-0023 名古屋市東区徳川町

能楽特別講座

「能へのいざない」

講師: 片山 九郎右衛門氏 (親世流能楽師)

日時: 4月30日(日) 午後1時30分～午後3時(開場: 午後1時)
定員: 70名(事前申込制/先着順)
参加費: 2,500円(入館料別途要)

学芸員の見どころトーク

①「大時絵展ー漆と金の千年物語」

②「能の世界ー神・男・女・狂・鬼ー」

日時: ①5月14日(日) ②5月20日(土)
午後2時～午後2時30分(開場: 午後1時30分)
定員: 各日70名(当日会場にて先着順/入館者聴講自由)

※各種講座・イベントへの申込方法など、詳しくは当館ホームページをご覧ください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町

●磁石バス「徳川園新出来」下車徒歩3分
●メーグル「徳川園」徳川美術館・蓬左文庫「下車」
●JR中央線「大宮駅」下車南口より徒歩10分



特別展

大時絵展

漆と金の千年物語

漆で絵を描き、金粉や銀粉を蒔きつけて文様をあらわす「時絵」は、日本文化において長きにわたり理想美の象徴となっています。本展覧会はMOA美術館、三井記念美術館、徳川美術館の3館が共同で開催し、平安時代から現代の漆芸家作品にいたるまで、3会場で国宝25件、重要文化財50件を含む計188件を展覧して、時絵の全貌に迫ります。

最後の開催となる徳川美術館では、国宝14件、重文24件を含む約120件を展示。国宝「初音時絵調度」（徳川美術館蔵）をはじめ、平安時代の和様意匠の完成を示す国宝「仏功徳時絵経箱」（藤田美術館蔵）や重文「野辺雀時絵手箱」（金剛寺蔵）、国宝「籬菊螺鈿時絵硯箱」（鶴岡八幡宮蔵）をはじめとする鎌倉時代の時絵の名品、琳派様式の時絵、江戸時代から近代に活躍した名工による作品など、各時代を代表する名品に、現代の人間国宝を加えた選りすぐりの時絵をご紹介します。

さらに国宝「源氏物語絵巻」（徳川美術館蔵）をはじめとした物語絵巻や屏風、書跡なども併せて展覧し、日本人が追求した美の系譜をたどります。

※会期中、展示替えがあります。
前期 4月15日（土）～5月7日（日）
後期 5月9日（火）～5月28日（日）

第五章

桃山期の時絵

— 黄金と南蛮 —

社会システムの転換期である桃山時代に登場した、簡略化された時絵様式である高台寺時絵や西洋人向けの輸出品として製作された南蛮漆器を紹介します。



重要文化財
秋草時絵歌書箱
桃山時代・16世紀
高台寺蔵 [後期]

第一章

源氏物語

絵巻と

王朝の美

国宝「源氏物語絵巻」（徳川美術館蔵）や和様の書を通して、平安時代に享受された貴族の美意識をたどります。こうした美意識は時絵にも反映され、素材を超えた和様の意匠の完成を見ることが出来ます。



国宝 源氏物語絵巻 楠木（一） 平安時代・12世紀 徳川美術館蔵 [5/20～5/28]

◆表面の作品

国宝 初音時絵文台・硯箱 江戸時代・寛永16年（1639） 徳川美術館蔵 [全期間]
国宝 籬菊螺鈿時絵硯箱 鎌倉時代・13世紀 鶴岡八幡宮蔵 [前期]
国宝 源氏物語絵巻 宿木（一） 平安時代・12世紀 徳川美術館蔵 [4/27～5/7]

第二章

神々と仏の荘厳

御神宝や経箱、宝珠箱など神社や寺院に奉納された時絵の名品を紹介します。



国宝 仏功徳時絵経箱 平安時代・10世紀 藤田美術館蔵 [前期]



重要文化財 野辺雀時絵手箱 平安時代・12世紀 金剛寺蔵 [後期]



国宝 籬菊螺鈿時絵硯箱 鎌倉時代・13世紀 鶴岡八幡宮蔵 [前期]



国宝 金地螺鈿毛抜形太刀 平安時代・12世紀 春日大社蔵 [4/27～5/7]

第三章

鎌倉の手箱

鎌倉時代には時絵の基本技法である研出時絵・平時絵・高時絵が完成しました。内容品が附属する大型の手箱が多く、和歌や漢詩にちなんだ意匠が特徴です。



重要文化財 檜扇紋散時絵手箱 鎌倉時代・13～14世紀 東京国立博物館蔵 [前期]



重要文化財 山水人物時絵手箱 鎌倉時代・14世紀 MOA美術館蔵 [後期]

第四章

東山文化

— 時絵と文学意匠 —

室町時代には文学と結びついた意匠の時絵が多く登場します。また金貝や切金・銀なども多用され、時絵の技術も複雑化しました。



重要文化財 小倉山時絵硯箱 室町時代・15世紀 サントリー美術館蔵 [後期]



重要文化財 晩晩山時絵硯箱 室町時代・16世紀 根津美術館蔵 [前期]

第六章

江戸時絵の諸相

幕府や大名家に抱えられた時絵師が伝統を継承する一方、光悦や光琳の琳派様式の時絵や町人の生活を彩る時絵の品々など、それまでの概念に囚われない新風も吹き込みました。



重要文化財 秋野時絵硯箱 伝五十嵐道甫作 江戸時代・17世紀 個人蔵 [前期]



▲四季草花時絵茶箱 原羊造斎作・酒井抱一下絵 江戸時代・19世紀 個人蔵 [後期]



▶国宝 舟橋時絵硯箱 伝本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵 [前期]



藤蓮楓園 酒井抱一筆 江戸時代・19世紀 MOA美術館蔵 [全期間]



第七章

近代の時絵

— 伝統様式 —

明治維新で時絵を取り巻く状況が激変します。そのような中で欧米向けの作品製作や博覧会への出品、帝室技芸員制度など、新たな局面に對峙し、乗り越えてきた時絵師の名品を紹介します。



五節句時絵手箱 柴田是貞作 江戸～明治時代・19世紀 サントリー美術館蔵 [後期]



時絵八角菓子器 白山松哉作 明治44年（1911） MOA美術館蔵 [全期間]

第八章

現代の時絵 — 人間国宝

第二次世界大戦で伝統的な工芸技術が衰亡の危機に見舞われる中、それらの保存と伝承のため、重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定が行われました。伝統工芸を担う人間国宝の作品をお楽しみください。



赤とんぼ時絵箱 松田権六作 昭和44年（1969） 京都国立近代美術館蔵 [全期間]



時絵螺鈿丸箱「秋葵」 密瀬和夫作 平成29年（2017） ポーラ伝統文化振興財団蔵 [全期間]